

環境教育



学校教育における環境教育

守谷市教育委員会

【国際的視点】 地球環境会議 ベオグラード憲章 アジェンダ 21 京都議定書 コペンハーゲン合意	【目 標】 環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育成する。
【県教育指導方針】 環境教育の充実 <三つの視点> 「環境から学ぶ」 「環境について学ぶ」 「環境のために学ぶ」 【関係法令】 環境基本法 環境基本条例 学習指導要領	【具体的視点】 関 心 ：全環境とそれにかかわる問題に関する関心と感受性を身に付けること 知 識 ：全環境とそれにかかわる問題及び人間の環境に対する厳しい責任や使命についての基本的な理解を身に付けること 態 度 ：社会的価値や環境に対する強い感受性、環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身に付けること 技 能 ：環境問題を解決するための技能を身につけること 評価能力 ：環境状況の測定や教育のプログラムを生態学的・経済的・社会的・美的その他の教育的見地にとって評価できること 参 加 ：環境問題を解決するための行動を確実にするために、環境問題に関する責任と事態の緊急性についての認識を深めること

	小学校	中学校・高等学校
ね ら い	児童が身近な環境に意欲的にかかわり、問題を見だし、考え判断し、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てること ① 豊かな感受性を育成すること ② 活動や体験を重視すること ③ 身近な問題を重視すること	環境問題の解決は、人類共通の課題であり、他人事ではなく自分自身にも関係があることを理解し、積極的に環境に働きかける態度を育てること
身に付けたい能力と態度	① 環境に対して積極的にかかわったり、環境を思いやったり、よりよくしようとする関心や意欲、態度など ② 環境とかかわり、それについて考えたり、判断したりする思考力や判断力、及び表現力など ③ 環境にかかわって課題を見付けたら、解決したり、創造したりするために必要な知識・理解や技能など	① 問題解決能力 ② 数理的能力 ③ 情報処理能力 ④ コミュニケーション能力 ⑤ 環境を評価する能力 ⑥ 自然や社会事象に対する関心、意欲、態度 ⑦ 主体的思考 ⑧ 社会的態度 ⑨ 他人の信念、意見に対する寛容



学校全体での取組み	各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間での実践 ・自然体験や社会体験活動の積極的導入 ・各教科等の環境教育関連単元の指導計画の作成 ・道徳「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」 ・外部人材等の積極的活用 ・総合的な学習の時間・・・各学校の創意工夫
学校教育、家庭教育、社会教育の連携	地域社会の自然探索会や美化活動等への積極的参加の推奨
発達段階に応じた体系的な教育	「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点による位置付け
地域の実態に応じた取組み	「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、足元から行動する）

環境教育の実践

守谷市立大井沢小学校 担当 久保宮 修子

1 はじめに

本校での環境教育の具体的な取り組みとして、一つ目は各教科，特別活動など総合的な活動の時間への位置づけを明確にして，その中で充実を図ること，二つ目は自然体験などを通して環境に対する豊かな感性を育成することである。

この目標のもとに，環境教育を実践してきた。

2 実践

(1) 学校美化活動

ア 美化活動

学年花壇での草花の栽培，除草，整備

イ 大掃除週間の設定・実施（学期末）

ウ 無言清掃週間

(2) 児童会活動

ア 学年による清掃活動

イ 園芸委員会「学校花壇や草花のプランターの整備」

「園芸委員会だより」

ウ 飼育委員会「ウサギや魚の飼育」

エ 保健委員会「流しやトイレの清掃点検」

「無言清掃週間カード」

オ 広報委員会「正門掲示板予定表作り，

ポスター掲示と撤去」

カ 給食委員会「配膳台の整理整頓，ポスター作り」

キ ボランティア委員会「緑・赤い羽根募金活動（ポスター，手紙による啓発活動）」

「落ち葉はき清掃活動」

「ペットボトルのキャップ回収」

「複十字シール，はがきの募金呼びかけ」



【大井沢の四季 掲示】



【無言清掃週間カード】



【園芸委員会だより】



【ペットボトルキャップ回収】



【赤い羽根募金活動】

(3) 環境教育の啓発

ア 愛農活動「野菜や草花の栽培」

イ 各種作品募集への参加

ウ 教室や図書室の整備，自由研究作品の掲示

エ バードピアへの登録

(4) P T A活動

ア 年4回の除草作業（P T A整備部，職員，児童参加）

イ ベルマーク集め（各教室にベルマーク箱の設置，回収・集計）

ウ 使用済みカートリッジ・書き損じはがきの回収



(5) 国語科, 生活科, 理科, 社会科, 総合的な学習の時間における取り組み

学 年	教科・領域	学 習 内 容
第1学年	生活科 *OHL=大井沢 ヒューマンライ ブラリー (人材 バンク) 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 一人一鉢での栽培と観察(アサガオ、チューリップ) 野菜の栽培と観察(なす, ミニトマト) 校庭, 四季の里公園・板戸井公園での植物や昆虫などの観察・ふれあい(季節ごとに) 落ち葉や木の実を使った制作とお店屋さん 小動物とのふれあい(東武動物公園にて)
第2学年	国語科 生活科	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の栽培 さつまいもの栽培(植え付け, 除草, 収穫) 立沢湿地での生き物さがし(OHLを活用して) 校庭での植物や昆虫などの観察・ふれあい 「ビーバーの大工事」を通して生き物の生態や環境を考える
第3学年	理科 社会科 総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> モンシロチョウの観察 オクラ, ひまわり, ホウセンカの観察 大井沢の植物・鳥・虫についての体験活動(GTの活用)
第4学年	総合的な学習の時間 社会科 理科 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 常総環境センター, 上下水道見学 生き物を調べよう(年間を通して) いろいろな環境を守る工夫について調べよう
第5学年	総合的な学習の時間 社会科 理科 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 立沢湿地内(田んぼ)での米作り体験 自動車を作る工場 わたしたちの国土と環境 インゲン豆, とうもろこし, 大根, にんじんの栽培観察 森林のおくりもの
第6学年	理科 家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物のくらしと環境, ジャガイモの栽培・観察 近隣の人との生活を考えよう 「つくろう さわやかな生活」季節に合うくらし, 快適な住み方について話し合おう 「わたしたちの未来について(環境問題)」の討論 環境についてのポスター作成 リサイクル, 鬼怒川絵画コンクール作品作成

3 考 察

- ・OHLに協力してくださる地域の方, GTの方や保護者の方々と共に活動することにより, 身近な自然との関わり方や自然の大切さ, 素晴らしさを知り, 楽しく積極的に活動することができた。
- ・低学年では, 動植物とのふれあいを通して, 自然に親しみ, 身近な自然を大切にしようとする心情が育ち, 中・高学年では, 地域の人々とのふれあいを通して, 環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。
- ・今年度から全学年が無言清掃カードを活用して, 清掃への取り組み状況を記録している。学年の実態に合わせて無言で誠実に清掃に取り組めるようになってきた。

4 課 題

- ・効果的な体験活動ができるように, 地域や児童の実態に応じた年間指導計画の見直し, 身近な自然や地域の環境を活用した教材開発, 人材発掘を行い, よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図りたい。

環境教育の実践

守谷市立大野小学校 担当 小泉 正子

1 はじめに

本校では、環境教育の充実のため、計画的に実践活動を行ってきた。学年の発達段階に応じて体験活動を積み重ねることで、生き物や自然を大切にする態度や、身近な環境をよりよいものにしていこうとする態度を育てるようにしている。

本校の環境教育のねらい

- ・身近な環境の様子や問題等に関心を持ち、環境に対する豊かな感受性を育てる。
- ・児童の発達段階に即して、環境問題等を改善しようとする態度や心情を育てる。
- ・草花の栽培や、動物の飼育活動を通じて、実践する力と意欲を育てる。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

① 児童会活動

委員会活動を中心にウサギ、烏骨鶏等の飼育活動を行う。また、清掃活動、除草活動を計画し、実践する。

② 環境に関する啓発活動

地球温暖化と省エネ対応に関する取り組みを行う。

- ・省エネ出前授業実施
- ・ツルレイシや夕顔でグリーンカーテンを作成
- ・休み時間や給食時の消灯をこまめに行い、無駄な電気を消す。
- ・各種環境啓発ポスターへの積極的な応募

③ PTA 活動

- ・ベルマークを集め、備品を購入する。
- ・校内奉仕作業（年1回）

④ サツマイモ・米の栽培

全児童でサツマイモや米を栽培し、秋の収穫祭で焼き芋や餅にして食べる。

(2) 各学年での取り組み

① 1年生

- ・アサガオの栽培と観察（生活科）
- ・落ち葉を使った作品づくり（生活科）
- ・稲の種まき（生活科）

② 2年生

- ・ミニトマトの栽培（生活科）
- ・水辺の生き物の観察（生活科）
- ・稲の種まき（生活科）

- ③ 3年生
 - ・モンシロチョウの観察（理科）
 - ・ヒマワリの栽培と観察（理科）
 - ・スーパーマーケット，地域の工場の見学（社会）
 - ・脱穀（総合）
- ④ 4年生
 - ・ツルレイシの栽培と観察（理科）
 - ・常総環境センターや上下水道事務所の見学（社会）
 - ・米作り…種まきから収穫まで「大野小協力の会」の方々の指導を受けながら，半年かけて体験する。（総合）
 - ・省エネ出前授業（学活）
- ⑤ 5年生
 - ・インゲン豆の栽培と観察（理科）
 - ・田植え（総合）
 - ・学区内河川敷のクリーン作戦（総合）
 - ・省エネ出前授業（総合）
- ⑥ 6年生
 - ・ジャガイモの栽培と観察（理科）
 - ・稲刈り，おだかけ（総合）
 - ・省エネ出前授業（学活）



〈米づくり体験～田植えの様子〉



〈グリーンカーテン〉

3 考察

- 児童一人一人が田や畑など身近な自然の中で活動することにより，自然の大切さを実感することができた。
- 今年度は，地球環境に目を向けて省エネを考えた生活を学校で実践し，特に夏休み中の家庭生活へとつなげることができた。

4 課題

- 総合的な学習の時間削減に伴い，学習内容の充実を目指して更なる見直しが必要である。活動には，学校と地域がかかわる部分があるので，今後の学習内容については，地域の方々の理解をさらに進めたい。

環境教育の実践

守谷市立高野小学校 梅澤 真紀子

1 はじめに

本校の周りには豊かな自然がある。校庭は様々な木々に囲まれ、校庭からは広々とした水田を眺めることができる。こうした、身近な自然環境に触れ、感じる体験を通して自然環境に対する興味・関心を高め、自分と自然環境の関わりについて考える力を育成することをめあてとして、環境教育を進めてきた。特に、体験的な活動や問題解決的な学習を多く取り入れ、各教科、特別活動、総合的な学習の時間などを通して取り組んできた。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

ア 美化活動

- ・学年ごとの除草作業

イ 栽培活動

- ・さつまいもの植え付け、収穫
(仲良し学年での異学年交流)
- ・各学年での花壇の活用
(生活科、理科、総合学習教材)

ウ 飼育活動

- ・飼育委員会によるコジュケイ、
金魚の飼育活動



学年花壇の活用



コジュケイの飼育活動



さつまいもの苗植え (1・6年)

エ 児童会活動

- ・飼育委員会によるコジュケイ、金魚の飼育活動。
- ・栽培委員会を中心とした学校緑化活動による植物の栽培。
- ・ボランティア委員会によるアルミ缶、ペットボトルキャップの回収
緑の羽根募金で頂いた樹木と花苗の移植
- ・環境委員会による秋の落ち葉掃き。
- ・野外活動クラブでの自然体験活動



高野小緑化活動



コジュケイの世話



エコキャップの回収

(2) 各学年での取り組み

ア 低学年

- ・一人一鉢栽培
1年アサガオ, チューリップ, クロッカス
2年ミニトマト
- ・収穫の楽しさを味わう活動 (2年)
ナス, キュウリ, ピーマン, パプリカ
トウモロコシ
- ・季節を感じる活動 (1・2年)
1年生と遊ぼう, 公園へ行こう, ザリガニ釣り

イ 中学年

- ・理科の植物栽培
3年ホウセンカ, オクラ, キャベツ
マリーゴールド
- 4年ツルレイシ
- ・高野史跡めぐり, 町探検 (3年)
- ・ふるさと歴史探検 (4年)
地域のボランティアの方の指導による歴史探検



1年生と遊ぼう (校庭の山)



ザリガニ釣り



高野史跡めぐり

ウ 高学年

- ・高野土地改良区の皆さんの指導による田植え, 稲刈り体験 (5年生)
- ・栽培委員会を中心とした花壇・プランターの整備
- ・ボランティア委員会によるペットボトルキャップの回収, 緑の羽根募金の花木の移植
- ・環境委員会, 高学年を中心としたボランティアによる校内落ち葉掃き (海禅寺側)



田植え体験



プランターの苗植え



緑の羽根募金で頂いた草花

3 考察

低学年では, 校内や学校周辺の恵まれた環境を生かした活動を行うことができた。生活科の学習を中心に野菜や植物の栽培活動や身近な公園・田んぼへの探検を通して, 実際に自然にふれ, 自然に親しむ態度が育ってきている。中・高学年では, 町探検や田植え・稲刈り体験など, 総合的な学習の時間を中心に高野地区のボランティアの方々に協力を頂いた活動を取り入れることができた。また, 各学年において, 自然体験活動が異学年での交流を深める場にもなっている。

児童会活動では, 委員会ごとに環境を整備する活動が行われ, 自主的なボランティア活動による落ち葉掃き等の活動により, ボランティア精神を育むことができた。

4 課題

- ・新学習指導要領と照らし合わせ, 高野小学校の豊かな自然を活用した身近な教材を取り入れる。
- ・地域の専門家やボランティアの方々, 保護者と連携し, さらに多様な活動を取り入れる。

環境教育の実践

守谷市立守谷小学校 担当 澁佐 治香

1 はじめに

本校の周りは、宅地造成が進んでいるが森林公園や城址公園など豊かな自然も残っている。しかし、放射線の関係で校外での活動は控えることが多くあった。また、学校の新築工事で校庭の使用が制限されている。限られた環境の中でも各教科や総合的な学習の時間などを通して環境教育に取り組んできた。体験学習から興味関心をもち、調べて発表する。そして、学び得たことを実践につなげて持続させることをめあてとしてきた。

2 実践

(1) 学校全体の取り組みについて

委員会活動	ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・手足の不自由な子どもを育てる運動（友情の絵はがき） ・緑の羽根募金活動，赤い羽根募金活動 ・エコキャップ運動（お昼の放送や各クラスに実際に行き行って呼びかけ） ・落ち葉掃きお手伝い
	栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の管理（除草，水やり） ・パンジー，サルビア，マリーゴールド，ノースポール，ガーベラ，ビオラ 植え ・落ち葉掃き
	整備	<ul style="list-style-type: none"> ・校内除草，落ち葉掃き活動 ・各学級の掃除用具入れの点検（お昼の放送で点検報告）
ボランティア活動		・八坂神社境内の落ち葉掃き活動

(2) 各学年の学習での取り組みについて

学年	教科・領域	学習内容
1学年	生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一鉢（アサガオ，チューリップの栽培） ・小動物とのふれあい（校外学習東武動物公園） ・校内探検や森林公園探検は放射能の関係で，控えた。
第2学年	生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニトマト，フウセンカズラ，ヒマワリ，ホウセンカの栽培 ・生き物とのふれあい・自然博物館展示見学 ・自然博物館化石掘り体験
第3学年	総合的な学習 社会科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけよう！守谷のひみつ（学区探検，八坂神社） ・小さな鳥の資料館（ゲストティーチャーを招く） ・校外学習（明治ミルク館，スーパーマーケット） ・モンシロチョウの観察と飼育 ・オクラ，ホウセンカ，ひまわりの観察と栽培
第4学年	総合的な学習 社会科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズミッションへの取り組み（実践例あり） ・環境に関する新聞作り ・水道事務所見学 常総環境センター見学 ・ツルレイシの観察と栽培
第5学年	総合的な学習 国語科 社会科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・研究「地球のためにできること」米作りを通し，環境を考え生きる力を養う。 ・ペットボトル稲栽培・八坂神社の清掃 ・わたしたちの生活と環境 ・森林のおくりもの ・インゲンマメの観察と栽培



学 年	教科・領域	学 習 内 容
第6学年	総合的な学習 家庭科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化、酸性雨、砂漠化、森林の減少など自然環境に関わる内容についてウェブページ、書籍などを使って調べ、スタディノートにまとめた。 ・自然と生き物の関わり新聞発行「わたしたちの生活と環境」 ・自分ができることを見つけてやってみよう（生活から出るゴミ、排水を少なくしよう） ・ジャガイモの栽培

(3) 実践例

5年生の実践例

<具体的な取り組み>

- ・学年農園を田んぼにして古代米作り（田植え～収穫・飯ごう炊飯で試食）
- ・各自ペットボトルで稲作り
- ・体験活動から生まれてくる「やってみたい」「知りたい」「調べたい」「なぜ？」という思いを一人一人の課題（古代米の種類、米の料理、古代米と白米の違い、昔の米作り、米の栄養等）として調べる。
- ・発表会を通して調べたことを分かりやすく伝え合う。

※体験を通して稲作の大変さを実感し、さらに昔の農家が使っていた道具について知ることができた。

※表現力を伸ばすために体験活動後には自分の思いをいろいろな表現方法（作文、俳句、ショート劇、紙芝居、クイズ、新聞等）で伝え合う場面を作った。



3 考察

今年は放射線の関係で昨年のようにはいかないことも多くあった。正しい放射線の理解が求められていると考える。限られた環境の中で低学年では、身近な動植物とのふれあいを通して身近な自然を大切にしようとする心情が育ち、中・高学年では、各教科や体験学習を通して、環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。

4 今後の課題

- ・学校の新築工事や放射線の関係に伴い、限られた環境の中での環境教育のあり方の工夫
- ・地球の環境を保全するために、教職員も日頃から資源を大切にす意識を高くもつ努力
- ・効果的な体験活動ができるように年間指導計画の見直し
- ・身近な自然や地域を活用した教材開発

環境教育の実践

守谷市立黒内小学校 古谷 洋子

1 はじめに

本校では、「環境教育の全体計画」をもとに、各教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体を通して、環境教育に取り組んできた。本校は土塔森林公園に隣接し、児童は季節毎に変化する森林の様子を日々観察しながら生活している。また、守谷市の「里親事業」の一環としても公園と深い関わりをもっている。更に、敷地内にはたくさんの花壇や樹木、畑や田んぼがあり、豊かな感性を育むことができる環境にある。今年度本校では下記のような実践を行った。



〈 山ゆりの会の方と 〉

2 実践

(1) 土塔森林公園へのかかわり

4年生は、市の花、山ゆりを保護している市の団体「山ゆりの会」の方々と共に、季節ごとに山ゆりを保護する活動をした。春には、群生している山ゆりの周囲を棒やひもで囲い、秋には支柱をはずしたり、落ち葉集め等を行った。

(2) お花見給食，青空教室

本校の敷地内には、桜や大きな銀杏の木等があり、四季折々の美しい自然に彩られる。今年度は、桜の季節に4年生，5年生と6年生がお花見給食を行った。満開の桜の木の下で食べる給食にいつも以上に笑顔が輝き、美しい自然環境の中で豊かな人間性を育む食育教育を実践することができた。

また、校舎前には花壇や芝生が整備され、色とりどりの花や緑が一年を通して見ることができる。授業やクラブ活動等で活用され、児童は美しい環境の中で伸び伸びと活動することができている。



〈 4年生 〉



〈 5年生 〉



〈 クラブ活動 〉

(3) 田んぼ作り

「田んぼのまわりのふしぎ発見」というテーマのもと、5年生は田んぼ作りに取り組んだ。地域の方の協力を得て5月から田植えや草取り、稲刈り、おだかけ、脱穀と体験を積み上げた。長期にわたる栽培活動で収穫した米を食べることにより、米の大切さを深く味わうことができると思われる。また、生き物の住む田んぼを目指して周辺整備を行い、ヤゴやオタマジャクシ、水中に住む微生物や昆虫類を観察することができた。



〈 田んぼ作り 〉



〈 稲刈り 〉



〈 地域の方と脱穀 〉

(4) 衣食に役立つ綿花

6年生の「総合的な学習の時間」では、「くらしに役立つ植物のひみつ」という学習テーマで綿花を栽培し、身の回りの生活環境に関心をもたせ、課題を設定・解決していく学習を行った。春に種をまき、綿を収穫した後、外部講師を招聘しての「糸つむぎ体験」や校内のマリーゴールドによる「草木染め体験」、作った糸を使つての機織りまで行い、その経験をもとに植物や自然環境に関する課題設定を行った。卒業制作の一つであるコースター作りを児童は楽しみにしている。



〈 綿操り 〉



〈 綿打ち 〉



〈 染色 〉

(4) PTAによる取り組み

PTAの保健厚生委員会は、各階にペットボトルキャップ用の箱やインクカートリッジ用の箱を設置し、定期的に回収を行っている。児童の目につきやすい箇所に設置することにより、関心が高まりたくさんのペットボトルやインクカートリッジが回収されている。E C O活動をまず身近なところから実践し、成果を上げている。



〈 職員室前 〉



〈 昇降口付近 〉



〈 ペットボトルキャップ 〉

(5) 畑での作物の栽培

学年毎に季節に応じて、敷地内の畑や田んぼに野菜等が栽培され、観察、収穫、試食等が行われた。

1年 サツマイモ

2年 落花生

3年 豆

4年 ソバ

5年 米、ヒラタケ

6年 綿花、ヒラタケ

3 考察

「自然を楽しみ、自然を大切にしたい。」という思いは、豊かな自然環境により多くかかわりをもたせることで育まれていこうと考え、指導を行ってきた。森林公園での自然観察やさまざまな体験活動を通して、多くの児童が自然に親しみ、自然に感謝する心が育ってきたように思える。また、地球規模で叫ばれる環境保護も「まずは、自分が実践できることから。」というPTA活動による資源回収が行われ、一人一人の実践が大切であるということに気づき始めてきたように思われる。

4 課題

- (1) 地域や各機関との連携を図った、ゲストティーチャーの活用
- (2) よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成

環境教育の実践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 下田 京子

1 はじめに

本校では、環境教育の充実を計画的に実践活動を行ってきた。ねらいを明確にし体験的な活動を積み重ねることで、生き物や自然を大切にする態度や身近な環境を自分たちの生活と結び付けて見つめ、より良くしていこうとする実践的な態度の育成を目指している。

なお、本校が目指す児童の姿は次のとおりである。

○低学年

- ・ 自然に親しみ、自然のよさの体験を通して知る。
- ・ 植物の世話を通し、生命の尊さを知る。

○中学年

- ・ 身近な地域の自然に触れ、進んでよりよい環境にしようとする。
- ・ 資源の有限性を知り、ものを大切にする必要性を知る。

○高学年

- ・ 自然の生態系を学習し、環境を保全・改善しようとする。
- ・ 身近な環境問題に関心を持ち、進んで解決方法を考え実践する。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

① 各学年での活動

- ・ 学校花壇、学年花壇の草花の栽培と除草作業
- ・ さつまいもの栽培に関わる作業と収穫活動
- ・ 3～6年生による、約2ヶ月にもおよぶ朝の校庭と街路樹周辺の落ち葉掃きボランティア

② 委員会活動（環境教育に関するもののみ）

- ・ 園芸委員会・・・学年花壇作り準備、学校花壇作り、除草、水まき
公園の里親事業(苗の移植、水まき、除草)
- ・ ボランティア委員会・・・エコキャップ回収



〈園芸委員会、公園里親事業〉

(2) 各学年での取り組み

① 1年生

- ・ アサガオ、ヒマワリの栽培と観察
- ・ 菜の花の栽培
- ・ 立沢公園での自然に親しむ活動

② 2年生

- ・ いろいろな野菜の栽培収穫と観察
- ・ 春や秋の町探検での自然観察
- ・ とうもろこし（ポップコーン）の栽培

③ 3年生

- ・ オクラの栽培
- ・ ホウセンカの栽培
- ・ モンシロチョウの飼育



〈1年生のアサガオ栽培〉

④ 4年生

- ・ ツルレイシの栽培
- ・ 常総環境センターや浄水場の見学
- ・ 環境問題についての調べ学習



〈4年生 環境センターの見学〉



〈5年生 稲刈り活動〉

⑤ 5年生

- ・ 「里山における3校合同の米作り」活動への参加
- ・ 収穫した米を使っての飯盒炊飯
- ・ 食の大切さについて考え、まとめる学習

⑥ 6年生

- ・ ジャガイモの栽培と観察
- ・ 環境やエネルギーについての学習



〈3年生～6年生による落ち葉掃き〉

3 考察

児童一人一人が環境に関わる身近な活動を通して、自然に親しんだり、身近な自然を大切にしようとしたりする態度が育ってきている。低学年では身近な野菜の栽培や公園探検などを通し、自然の美しさや豊かさを感じる心情を、高学年になると自分と環境との関わりを真剣に考えていく態度が養われていった。また、環境を守るために自分たちにできる活動を考え、公園里親活動や落ち葉掃きなどを進んで行うことができた。

4 課題

- (1) 効果的な体験活動を取り入れた年間指導計画の見直しと具体的実践活動の工夫
- (2) 教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動と環境教育との関連の明確化と教材の開発
- (3) 直接的な自然体験の実施や環境問題に取り組む専門家や地域の人々などのゲストティーチャーの活用
- (4) 各家庭の放射線に対する個別の考え方を尊重したこれからの環境教育の方向

環境教育の実践

守谷市立郷州小学校 担当 神社 裕子

1 はじめに

本校では、環境教育を以下の目標で実践している。

- (1) 環境とそれに関わる問題に気付き、関心を持つとともに、環境保全のために必要な知識・技能・実践する態度を育てる。
- (2) ボランティア活動や特別活動などの体験を通して、環境保全に関しての実践活動力を身に付けさせる。
- (3) 道徳教育や各教科との関連を図り、地域の環境や校外学習での体験を通して、自然の美しさや偉大さを知り、自然を愛する豊かな心を育てる。



<公園里親事業>

2 実践

(1) 学校美化活動

① 学年花壇

- ・校内にある花壇での草花栽培，除草，整備・一人一苗運動

② 「郷州ピカピカ大作戦」

- ・学級ごとに，每学期末の大掃除週間

③ 教室や廊下の環境整備

- ・各学年で行った環境に関する学習の振り返り等をパネルにまとめ，各教室や廊下，サポータールーム・会議室等に掲示

④ 教科に関連した活動

- ・各教科に環境に関する内容がある。その発展として環境活動を行う。
- ・4年生の「総合的な学習の時間」で，環境を取り上げている。

(2) 委員会活動

① 福祉委員会

緑の羽根募金，複十字シール，友情のはがきの募金呼びかけ，使用済みカートリッジやペットボトルキャップの回収，ベルマークの回収・整理

② 飼育委員会

くじゃくの飼育

③ 掲示委員会

月の行事予定表作り，季節の内容に合わせたポスターの掲示と張り替え

④ 栽培委員会

季節の草花の栽培と，プランター作り，水やり

(3) さつまいもの栽培・緑のカーテン運動

校外にある畑においてさつまいもの栽培・除草・収穫に全児童で取り組んだ。ツルレイシやアサガオを育て，緑のカーテンを各階で作った。

(4) PTA活動

①昨年度に引き続き，学校支援ボランティアの環境サポーターの協力のもとに，校内の廊下や階段に全学年の学習に関するクイズや，環境，文学関連の掲示物を作成，掲示している。

②ベルマークの回収・集計

各教室にベルマークの箱を設置し，月1回収し集計している。（*この活動は，児童による福祉委員会と協力して実施）

(5) 地域交流

公園里親事業として学校隣のみずき野中央公園に，サルビアやパンジーの花を植えたプランターを育て設置した。栽培委員のボランティア活動として実施され，地域の環境美化と交流を促進し，植物を大切にすることを育てることができた。

(6) 学習活動

各学年が各教科にわたり，様々な環境に関する学習に取り組んだ。以下は各学年の活動例である。

学 年	教 科	活 動 内 容
1 学年	生活科	・アサガオを育てよう。 ・学校探検 ・落ち葉や木の実でしおり作り
2 学年	生活科	・野菜を育てよう ・町探検で絵地図作り ・学校の春夏秋冬をみつけよう ・とぶ種を作ろう
3 学年	社会 理科	・町探検をしよう ・工場見学「明治ミルク館」排水，廃棄物の利用 ・学校の生き物探し ・ハウセンカ，オクラの栽培
4 学年	総合 理科	・「見つめよう！地球のためにできること」をテーマに，環境についての個人テーマの追究と発表会 ・ツルレイシの栽培，観察
5 学年	社会 総合	・私たちの生活と環境 白神山地の自然や生き物 ・バケツ稲作り ポリバケツを利用したの栽培，収穫，粃すり ・植物の成長 メダカの飼育観察 川と私たちの生活
6 学年	理科	・生物と地球の環境 調べ学習と発表



<ツルレイシのカーテン>



<ツルレイシの白い花>



<大きい実がたくさん実りました>



<ツルレイシの観察>



<赤い種ができました>



<環境戦隊エコレンジャー発表>

3 考 察

- (1) 各学年が各教科との関連を図り，単元の内容及び発展学習として環境学習を行うことができ，自然に感謝する心を育むことができた。
- (2) 地域の自然，人々との出会い，触れ合いなど，身近な事柄から学習することで，地に足がついた学習ができている。

4 課 題

- (1) より良い環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。及び身近な自然に対する興味関心を高める手立てを考える。
- (2) 教科，道徳，特別活動と環境教育の関連を明確にし，学年ごとの内容のつながりや効果的な学習形態の工夫を考える。
- (3) 地域や各機関との関連を図り，より充実した環境整備を図る。

環境教育の実践

守谷市立松前台小学校 担当 小林 道子

1 はじめに

本校では、環境教育を以下の目標で実践している。

- (1)身近な地域の自然や教育力を生かしながら、体験活動を通して環境問題への関心を高める。
- (2)自分と環境の関わりについて考え、環境保全に関する知識と態度を育てる。
- (3)美化活動、奉仕活動への積極的な参加を通して実践力を育てる。

2 実践

(1)学校全体での取り組み

ア美化活動

- ・学校花壇，学年花壇での草花の栽培・除草
- ・学期末大掃除

イ児童会活動

- ・飼育・栽培委員会による花の栽培，季節の花のプランター作り，土作り，除草，花摘み，守谷市公園里親事業への参加（街路樹への花の植え付け，除草，水かけ）
- ・飼育・栽培委員会による熱帯魚の世話
- ・サツマイモ栽培
- ・縦割り班による清掃活動（毎週水曜日，全児童を42班に分けての学校全体の清掃）
- ・ボランティア委員会によるリサイクル活動（ペットボトルのキャップ回収），みどりの羽募金活動



(2)学習活動における取り組み

ア低学年（生活科）

- ・サツマイモ，落花生の栽培（1・2年）
- ・草花の栽培（1年）
アサガオ，チューリップなど
- ・野菜の栽培（2年）
ナス，ミニトマト，ピーマン，キュウリなど
- ・近隣の公園での木や虫，鳥の様子を観察（1年）
- ・木の葉や木の実で作品作り（1年）
- ・町探検での公園探索（2年）



イ中学年

- ・ヒマワリ，ハウセンカの栽培（3年・理科・図工）
一人一人が種まき，世話をしながら，発芽から成長の様子を見守った。大きく咲いたヒマワリと自分の姿を比較し，成長したヒマワリへの思いを絵画に表現した。

- ・「自然発見」（3年・総合）
地域探検で発見したことから、自然を守るために自分たちができることについて書籍やインターネットで調べ、発表会で各自の考えを深めることができた。
- ・ヤゴの飼育（3年・理科）
プール掃除の際、ヤゴを採集・飼育し、羽化するまで観察を続けた。
- ・モンシロチョウの飼育（3年・理科）
各自が卵を採集し、羽化するまで飼育し、観察を続けた。
- ・水道事務所、ごみ処理場見学（4年・社会科）
どのように水をきれいにして飲み水を作るか、また、私たちが出すごみは、どのように処理されているのか見学やインタビューを通して学ぶことができた。
- ・浄化センター見学（4年・社会科）
薬品を使わず、微生物によって汚れた水が浄化されていく過程を学んだ。川の水を守ろうと働く人々の苦労や工夫を知り、私たち一人一人が「油を流さない。」「洗剤を使わない。」などの心がけが大切であることが理解できた。
- ・ツルレイシの栽培（4年・理科）
学年花壇にてグループで育て、種取りまで観察を続け、学習することができた。

ウ高学年

- ・米作り体験活動（5年・総合的な学習の時間）
バケツを使って一人一人が稲を育てる「バケツ稲作り」では、籾の観察から土作り、苗植え、水の管理、稲刈り、脱穀、籾すりなどの一連の活動を行い、米作りの大変さを知る一方で、環境や人との関わりに問題点を見出し、調べる活動に発展していった。また、御所ヶ丘小、大井沢小、松前台小による里山での米作り体験活動に参加し、環境や人との関わりについて関心を高めることができた。
- ・地球環境について考える（6年・理科）
地球環境について書籍やインターネットで調べ、自分たちにできることは何かを考え、まとめた。

3 考察

- (1)地域の公園や学区内の自然を生かし、生活科や理科や総合的な学習の時間における体験活動を通して、自然に親しむ楽しさや自然のすばらしさを感じとらせることができた。
- (2)G Tや学習ボランティアの活用、または浄化センターの見学などの校外学習を通して、より専門的で充実した内容の活動を行うことができた。

4 課題

- (1)学習したことから自分たちにできることは何かを考え実践化を図る。日々の清掃活動や給食の食べ残しをしないなど、身近なところからの実践を心がけるようにする。
- (2)教科、道徳、特別活動と環境教育の関連を明確にし、様々な場面での体験活動を取り入れていく。

環境教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 鈴木ひろみ

1 はじめに

県学校教育指導方針では、環境教育の充実を「社会の変化に適切に対応できる教育の推進」の一つとして重要視している。本校は、住宅地の中にあり自然とのふれあいが少ないという現状にあるが、学校教育推進の重点施策として、「自然体験等を通しての環境に対する豊かな感受性の育成」を目指している。本校の特性を考え、職員の共通理解のもと、実践をすすめている。

2 実践

(1) 各学年の実践

学年	教科・領域	学 習 活 動
1年	生活科 図工	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの一人一鉢栽培と観察（チューリップとクロッカスの栽培と観察）をした。 ・あさがおの種を取った後のつるでリースづくりをした。 ・牛乳パックで手づくりおもちゃ（紙とんぼ）を製作した。 ・空き箱を使っての工作。リサイクル・リユースについて説明した。
2年	生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜（ミニトマト・ナス・きゅうり・パプリカ・オクラ・枝豆）の栽培と観察、記録をした。 ・生き物の飼育と観察、記録をした。（ザリガニ・おたまじゃくし・バッタ・ヤモリ・トカゲ・かたつむり・メダカ・アリなど）
3年	総合的な学習の時間 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイズを栽培しダイズについての調べ学習をした。 ・保護者といっしょに豆腐づくりを行った。 ・ホウセンカ・マリーゴールド・オクラの栽培と観察をした。
4年	社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理と環境について、ごみのゆくえを追究する授業を行った。 ・上下水道の働きと水の循環について、川から家庭に届くまでの浄水場の役割や使った水の処理の仕方を環境と関連づけて学習した。
5年	社会科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の鴨川を例に、現在と昔で川の環境がどのように変化したのか、資料から読み取り、環境を大切にしていくための対応策を考える授業をした。 ・学年オープンで、フナ・タナゴ・メダカ・コイ・モロコ等を飼育している。
6年	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な社会」への取り組みについての調べ学習を念入りに行った。 ・「未来に生かす自然のエネルギー」の筆者の意見、資料を読み取る学習に力を入れた。
特別支援学級	校内合同学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイズの種をまき成長を観察し収穫をした。その経過と毎年行っている味噌づくりを「松ヶ丘まつり」で発表した。節分にはダイズの茎を利用した。 ・昨年仕込んだ味噌をあけ豚汁を作った。また今年度も味噌づくりを行った。 ・ワタを栽培し、ドライフラワーを作った。



<1学年・あさがおのつるで作ったリース>

<特別支援学級・「松ヶ丘まつり」で

「ダイズのひみつ」を発表>



<3学年・豆腐づくり>

<5学年・卵からのタナゴの飼育>

(2) 学校全体での取り組み

本年度は、玄関近くに「発見！松ヶ丘小」という掲示コーナーをつくり、校内で児童に注目してほしい事柄やようすについて、写真と文で紹介した。松ヶ丘小にも季節をあらわす自然が、たくさんあり、しかも身近に存在することを継続して伝えるようにした。また、2年生の教室前の花壇を利用して、「水辺ビオトープ」(観察池)をつくり、児童がいつでも水辺の生き物や植物を観察できるようにした。生活科の学習にも大いに役立った。飯ごう炊飯体験施設を設置して日頃体験できない活動ができるようになった。



3 考察と課題

今年度は、野外の活動や栽培活動が制限されるということがあったが、各学年で工夫してさまざまな活動に取り組みた。 <水辺ビオトープ>

「見る」「触る」「聞く」「においをかぐ」など、五感を使った自然体験を通して、環境に対する豊かな感受性の育成を図ることができた。今後も、体験を通して環境意識の高揚を図っていきたい。

また、「発見！松ヶ丘小」の取り組みについては、今年は教師主導ですすめたが、来年度は、児童が主体的に発表する場にしていきたい。



環境教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 濱野 則子

1 はじめに

本校では、環境教育を実施するにあたり「よりよい環境を求めて、未来を切り開く生徒の育成～生徒自ら学び、考え、行動する環境教育～」というテーマを設定して教育活動を行い、意識が全校生徒に定着しつつある。本年度は放射能の影響もあり全校クリーン作戦等は実施できなかったが、生徒会を中心に、園芸・福祉委員会の活動として校内の美化運動に取り組んできた。今後も、自分達の住む守谷市の環境を基盤として、様々な環境問題に目を向け、積極的に行動できる生徒の育成に努力していきたいと考えている。

2 実践

(1) 教科における環境教育

各教科において、環境問題に視点をおいた題材があり、積極的に環境教育との関連を図るよう努力している。また、道徳でも、自然や生命に対する畏敬の念や奉仕的精神の高揚を目指して年間計画に組み込まれている。

理科

1年「水溶液の性質」

水を汚染する原因と環境について学習する。廃液処理の仕方と理由を理解する。

「植物の生活と種類」

学校や学校周辺の植物を観察し、植物と生えている場所の特徴に関して学習する。

2年「動物の生活と種類」

動物の観察や分類の学習を通して、自然保護や動物保護について考える。

3年「科学技術と人間の生活」

身のまわりの新素材や環境に優しい技術について調べ、資源保護について学習する。

「自然と人間」

地球規模での環境の変化について学習し、自然災害や自然からの恩恵について学ぶ。

社会科

3年「地球社会とわたしたち」

地球環境を守るための世界各国での取り組みを理解する。

技術科

2年「技術とわたしたちの生活」

環境を考慮した技術の学習であることを理解し、製品の製作の際は、環境にやさしいものづくりについて考える。

家庭科

1年「簡単な日常生活の調理」

調理実習を通し、効率よく材料を購入する方法や熱源を使用する方法・食器の洗い方を考えることで、環境に配慮することを学習する。

(2) 特別活動他における環境教育

主な活動計画	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・校内緑化運動 プランターの設置 ・プルタブ・ペットボトルキャップ収集 ・校内環境美化活動 ・体育祭 校舎内外の清掃, プランターの設置 ・守谷駅構内における挨拶運動 ・朝のあいさつ運動 	全学年 園芸委員会 福祉委員会 全学年 全学年 生徒会役員・生活委員 生徒会役員・学級委員・生活委員

(3) 生徒会活動における環境教育

放射能の影響で当初予定だった全校クリーン作戦は実施できなかったが、生徒会中心に朝のあいさつ運動や委員会活動において各種取り組みが行われた。



【守谷駅あいさつ運動】



【プルタブ・ペットボトルキャップ収集】

3 考察

各教科における学習の中で、生徒の身近な問題、自分たちの生活に直接関わる問題を取り上げることは、知識を高めるだけでなく、日常生活の意識向上につながると思われる。また、本年度も生徒会の企画のもと、守谷市の玄関口である『守谷駅』で地域の人々へ向けてのあいさつ運動や学校内での朝のあいさつ運動を行うことは、人的環境作りという点で、今後も継続できる活動であると考えられる。部活動単位で活動に参加したことも有意義であった。また、今年度は放射能の影響もあり限られた範囲内ではあったが、委員会活動の中でもプランターの設置やプルタブ・ペットボトルキャップ収集など環境に関心をもたせることができたのではないかと考える。

4 課題

環境教育と各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図るために、年間計画の見直しや教師の環境教育に対する意識を高める努力をしている。今後も、無理のない計画作り、日程作りに力を注ぎ、学校で行われている環境教育への取り組みを基盤として継続した活動を行っていききたい。また、今後は、地域の環境を活用した活動や、地域の人材を活用した体験活動を取り入れるなど、環境問題に対する意識をさらに高めていけるような学習内容の充実を図りたい。

環境教育の実践

守谷市立愛宕中学校 担当 本多 紀之

1 はじめに

「環境や環境問題に関心・知識を持ち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識のうえに立って、環境の保全に配慮した望ましいはたらきかけのできる技能や思考力、判断力を身につけたいと考えた。よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動がとれる態度を育成する。」という環境教育の目標のもと、教科・領域から関連の深い単元・分野を選び出し、授業の中で環境問題や環境保全について取り上げ環境問題の大切さを学習した。

2 実践

(1) 理科

「植物の生活と種類」 1 学年

- ・「植物の分類」の学習を通して、生物界の多様性について知ることができた。また、自然の中には、人の手によって育てられている植物も多くあることを学習した。
- ・植物の光合成によって植物は地球温暖化の原因となる二酸化炭素を一時的に蓄えることができる事を学習した。また、植物を増やすことで二酸化炭素の増加を防ぐことができる事を学習した。

「自然と人間」 3 学年

- ・地球上にはたくさんの生物が住んでいること、その生物は人間も含め互いに密接に関わりながら生活をしていることを学習した。人間の生活は自然に様々な影響を与えていること、その影響は人間の生活に跳ね返ってくることを学習した。

(2) 家庭科

「環境を考えた消費生活を工夫」

むだな消費をしないよう、今使えるものを大切に使うことや、資源を大切にするため、再利用できるごみは分別して出すこと、むだなエネルギーを使わないように暮らし方を工夫することなどを学習した。エコバッグ作り、廃油での石けん作りなどに取り組んだ。

(3) 技術科

「技術とわたしたちの生活」 2 学年

- ・製品の設計・製作

限りある資源を無駄なく有効に使うために、設計の仕方や製作の仕方について学習した。杉の間伐材などを利用し、リサイクルを心がけた作品制作を行った。

- ・エネルギー資源の変換と利用 3 学年

限りあるエネルギー資源についての有効利用の仕方について学習した。

(4) 道徳

- ・自然愛護に関する題材を取り上げ、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を育成する。生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する心を育てた。

(5) 特別活動

・ 委員会活動

「整備委員会」

少しでも再利用の効率をよくしたり、ごみを処理するときの環境への影響を考えたり、ごみを分別して捨てるよう呼びかけた。

(6) ボランティア活動を通しての環境教育

・ 野鳥の森散策路（遊歩道）ボランティア活動

守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」が中心となって開通させた遊歩道の木煉瓦積みや整備、ごみ拾いなどのボランティア活動を実施した。今年度は、野鳥の森に休憩所がつけられたので、その近くの整地と木煉瓦を組んで遊歩道（約20m）をつくった。また、湿地に沈んだ粗大ゴミの引き上げやゴミ拾いを行った。

今回も、生徒会を中心に100人近くの生徒が参加し、半日の活動を行った。ここからも身の回りにある環境に対して興味が高いことがわかる。ボランティア活動を通し、生徒たちの中に、地球の環境を守っていくためには単発的な大きな取り組みを行うのではなく、一人一人が環境を意識し、小さな取り組みを継続していくことが大切だという意識が芽生えた。



3 考察・課題

私たちを取り巻く環境は現在多くの問題を抱えている。この問題を解決していくためには、様々な角度から環境問題についてのアプローチをしていかなければならない。教育の現場である学校においても、特定の教科だけではなく、すべての学習活動を通して環境に関する基本的な知識を生徒たちに育む必要がある。

本校の生徒たちは、各教科をはじめ、委員会活動などの活動を通じて、環境問題に関する知識的な情報には多く接する機会がある。しかし、実体験を伴う活動が少ないこともあり、生活する上での実践的な活動には結びつくことが少ないように思われる。今後は「野鳥の森」での活動を多く取り入れ、実体験が伴った活動を継続していくことで現在の環境を守り、さらにより良いものにしていくという心の涵養を図っていきたい。

環境教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 後藤早苗

1 はじめに

地球温暖化等の環境問題が話題になって久しくなる。その影響と思われる豪雨や竜巻などの異常気象や異常事態が地球規模で起きている。これらのことから、人間を取りまく環境が年々悪化していると感じながらも、どこか実感が伴っていないように思われた。しかし、東日本大震災及び福島第一原発事故に見舞われた3.11以来、自然環境やエネルギー問題などが身近で切実な問題となり、環境に対する関心や意識がこれまで以上に高まったと思われる。その中で、本校は今ある環境を守るため「何ができるか」、「何をすべきか」を自らの問題として考え、一人一人ができることを見つけ、よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度を育成することを目標として教育活動を実践した。

2 実践

(1) 学習活動における取り組み

ア理科

・「植物の生活と種類」(1年)

学校内の環境と植物の生育関係について調査をした。また、植物の光合成の学習で、植物を守り、育てることは二酸化炭素の増加を防ぐことにつながることを理解した。

・「自然と人間」「科学技術と人間生活」(3年)

地球上には人間を含め、たくさんの生物が存在し、密接に関わりあって生活していることを理解した。また、人間の便利な生活が自然や他の生物に多大な影響を与えていることや、そのことが将来的に人間自身の生活環境に及ぼす影響についても考える機会となった。

イ国語

・「ハチドリ不思議」「百二十年の孤独」(1年)

熱帯雨林の減少で絶滅が危ぶまれているハチドリの生態やハチドリの遺伝的仕組みと環境との関係について学んだ。「百二十年の孤独」ではゾウガメの絶滅の原因が乱獲や人間がもたらした生態系の破壊であることを学ぶ。

ウ家庭科

・「被服」(2年)

資源の有効活用の観点から使わなくなったものを再利用し、クッションやバック等新たなものに作り直した。無駄をなくし、アイデアと工夫を生かす制作活動は身近な環境を考える良い体験となっている。また、完成後の作品展示は見る者にも資源を大切にしようとする気持ちを育てている。

エ総合的な学習での取り組み

1年生は「自己を見つめる」というテーマで健康や環境などそれぞれが興味・関心のあることを見つけて取り組んだ。震災後、節電・節水・省エネルギーが身近な話題となったこともあり、ガス

や電気を極力使用しないで作る料理や食材を丸ごと使い切る料理、残った料理を別の料理に作り替えるなどエコクッキングに取り組む生徒が多数見られた。また、ソーラークッカーを作って調理に挑んだ生徒もいた。更に、朝顔・ミニトマト・ゴーヤ等の栽培も行った。グリーンカーテンをつくることで夏場の教室環境を少しでも居心地良くしようという意図と食育の二つの観点からの試みであった。

(2) 部活動（科学研究部）の取り組み

急速に都市化が進む守谷市内の大気環境を知るため、地衣類の移植実験方法を開発し、大気環境の評価をすることを目的とし行われた。

移植実験には守谷市郊外に多数生育するナミガタウメノキゴケを用い、大気環境の異なる9調査地点の樹木に設置し、年間を通して定期的に観察・記録した。同時にその地点の二酸化窒素濃度を測定した。結果、二酸化窒素濃度と地衣類の成長度に相関関係があることが分かり、この成果を県科学研 究作品展で発表することとなった。地道な研究は今後も継続される予定である。

(3) 特別活動・その他の取り組み

生徒会のクリーン作戦における学校周辺の清掃活動、緑化委員会の緑の羽根募金・花壇作り・落ち葉掃き、生活委員会及び生徒会の朝のあいさつ運動、地域で行われる夏祭り後のクリーン作戦へのボランティア活動も継続して実践している。本年度も雨にもかかわらず各委員会や大勢の生徒の参加により、清掃活動を行うことができた。

3 考察

これまで各教科・特別活動・総合的な学習の時間また、マスメディアの報道などを通じて身の回りの様々な環境問題について学び、目にし、耳にしてきた。しかし、今年度ほどこの環境に対する問題が切実なものとして受け止められた年は無かったと思う。節電・節水を心がける生徒の姿もたくさん見かけた。現実に起きている様々な環境問題は今、もしくは将来の生活に直接かかわる問題であると強く認識した。当たり前と思っていた環境が恵まれた環境であったと気づき、身近な環境だけでなく、視野を広げることができるようになったと考える。

4. 課題

今年度学んだことを忘れず、できることを地道に継続して取り組むことが大切な課題である。本校の職員室には「環境が人を作る。されど、その環境は人が作る」という言葉が掲げられている。環境問題に取り組むためには、何といても人と人との結び付き、人との絆、いわゆる人的環境作りが重要であると思われる。地域の環境を利用しての体験的活動や地域の人材を生かした学習の場を設けるなど、環境問題に対して生徒が意識を高め、日常生活の場においてできることを一人一人が実践できるようにしていきたい。

環境教育の実践

守谷市立けやき台中学校 担当 加々美 益樹

1 はじめに

本校での環境教育では、環境問題についての意識を高めることが重要であると考え、下記の3つの視点を掲げて実践している。

『環境教育3つの視点』

- さまざまな環境問題の現状を知り、環境問題への関心を高める。
- 自然環境のしくみについて理解を深め、地球環境を大切にしていこうとする意識を高める。
- 自分たちにもできる環境保全策を考え、実践していこうとする態度を育てる。

本年度は、イオン財団より本校にソーラーパネルが寄贈された。身近な所で太陽光発電の仕組みを学ぶことができ、クリーンエネルギーへの関心を深めた。また、各教科での実践や道徳、生徒会活動等の特別活動でも環境問題に取り組み実践した。

2 実践

(1) 各教科における取り組み

【国語】

- 1年「ハチドリ不思議」や「百二十年の孤独」という説明的文章で、ハチドリやカメを例にした生物の生態と気候の変動、乱獲、環境問題が種の絶滅を招きかねないという内容について、自然環境に目を向けさせながら読み取りを行った。
- 2年「立場を決めて話し合おう」の単元では、身の回りの環境問題について、賛成、反対それぞれの立場のもとで意見文を発表し合い、環境への取り組み方への考えを深めた。
- 3年「テクノロジーと人間らしさ」という論説文では、便利な生活を支える技術と自然環境とのつながりを意識して読み取りを行った。

【社会】

- 1年 地理分野「身近な地域の調査」で、東京都のゴミ問題を題材として、ゴミの分別や処理の方法について学習した。
「世界各地の人々の生活と環境」で、地球温暖化をテーマに、海面上昇によって国が消えてしまう危機に直面する状況を学習し、自分達の今後の生活の仕方考えた。
- 2年 歴史分野「高度経済成長期」では、過疎・過密の引き起こす問題点について、花粉や工場の排気等による公害問題や、過疎地域での生活環境の維持についての理解を深めた。
地理分野「日本におけるエネルギー問題」でエネルギーの利用と環境破壊について学習した。
- 3年 公民分野「地球社会と私たち」で地球環境を考えるテーマで環境問題について学習した。

【理科】

- 1年「植物の生活と種類」で、学校や周辺の植物相についての理解を深めた。
- 2年「動物の生活と種類」で、絶滅危惧種に指定された動物について調べ、動物の生活する環境や自分達の生活のおよぼす影響について考え、理解を深めた。
- 3年「科学技術と人間の生活」で、環境を守る技術について学習した。また、リサイクルやエネルギー消費を減らす技術を学習した。様々なエネルギー資源について学習し、効率よい利用の仕方について学んだ。

【英語】

2年 ” A park or Parking Area?” の単元で、住環境の整備について考えさせた。
” Can anyone Hear Me?” の単元で、ごみ問題についての読み取り学習を行った。

【美術】

下水道ポスターの制作を通して、水資源の利用に対する意識を高めた。
校内の廃段ボールを再利用し、文化祭等の学校行事で装飾等に活用した。
工芸作品の廃材を利用して、他の作品制作につなげている。

【技術】

ものづくりの授業の中で、木工実習で残った木材を再利用し、資源を無駄にしないことを学習した。

【家庭】

2年「わたしたちの生活と住まい」の単元で、住居が環境と密接なつながりがあることを学習した。
気候や風土に応じた各地の住居の特徴、洗剤の選び方やシックハウス症候群、ユニバーサルデザイン等、環境に配慮した住まい方を考え、理解を深めた。

(2) 道徳・特別活動等における取り組み

【道徳】

屋久島の縄文杉をはじめとした世界遺産や、北極・南極圏に見られるオーロラ等、壮大な自然を題材とした教材に触れながら、大自然への畏敬の念や、自然の風景を大切にする気持ちを啓発した。

【特別活動】

生徒会での「クリーン作戦を」として毎週水曜日朝、学校周辺の清掃活動を行った。

ボランティア委員会ではペットボトルのキャップ集めを全校生徒に呼びかけ、多くのキャップを集めた。市役所生活環境課を通して、世界の子どもたちにポリオワクチンを送った。ゴミを集めただけでなく、命を守る活動にもつながっていることを知り、環境に対する意識高揚につながった。

(3) 特別支援学級における取り組み

畑で野菜を栽培し、発芽の様子や成長の様子を観察・記録を行った。また、収穫することで植物を育てる大変さを学ぶとともに、収穫することの喜びを味わった。

3 考察

「エコ」という言葉が日頃から当たり前聞かれるようになった。特に「エコ」を意識した商品は様々なアイデアが生まれ、次々に様々な所で売り出されている。様々な取り組みや実践は、環境に関する意識を高め、家庭生活の中でも少しずつ着実に日々実践されるようになっていく。

物を簡単に手に入れることができる半面、物であふれた時代であると言える現在。ゴミが増えないように、物を長く大切にすることにも目を向け、「エコ」の意味を考えさせるきっかけを様々な場面でつくり、また、各教科や領域等で実践し続けたいと考える。

4 課題

環境教育では様々な知識が必要だが、環境を大切にすための具体的な体験活動を併せて行うことでより効果的になる。また、教職員も日頃から資源を大切にする意識をもち、あらゆる場面で生徒に範を示したいところである。この問題は家庭での習慣や保護者の意識によるところも大きく、生徒が家庭で保護者に呼びかけることにつながるような学習も取り入れ、意識を持続させるとともに、意識を高めていけるようにしたいと考える。教科の視点は様々であるが、教科の輪を広げ、総合的に環境問題に取り組んでいけるように計画的に実践していきたい。